

施策番号 1-1-1	施策名 担い手育成と農業の応援づくり	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	我妻 修一	内線	242
	施策関係課	総務課、農業委員会				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
農業経営体の育成と新たな担い手の確保を推進し、町民の「食」と農業に対する理解の促進を図り、持続可能な農業による活力あるまちづくりを目指します。		農業経営体 町民	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営体の育成と新たな担い手確保による、経営の安定、拡大 担い手への農地集積 町民の「食」に対する理解促進 				専業経営を中心とした、発展・持続する土地利用型農業の推進		
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 新規就農者数(後継者就農を含む)	農林課調べ	人	58	8 (8)	11 (19)	14 (33)	7 (40)	50	※実績値 下段()内 は累計(目 標対比)
② 認定農業者等の担い手への農地集積率	農林課調べ	%	95.6	95.3	95.6	95.9	97.0	95%以上	
③ 日頃、地産地消を意識して買い物物をしている町民の割合	住民意識調査	%	75.8	83.8	84.0	86.4	81.8	80.0	
成果指標 設定の考え方	①新たな担い手確保における成果として、新規就農者数を指標とし、期間内に50人を目指すもの。 ②農業経営の基盤となる農地をできるだけ担い手に集積するという考えから、農業委員会による本調査数値を成果指標とし、現状維持を図っていくもの。 ③農業への理解と郷土愛醸成の指標として、本調査の割合を高水準で維持することを目指すもの。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	2,224,135	35,084	88,756	171,043	80,488
人工数(業務量)	4,7540	4,5469	2,4198	2,4385	2,3422

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・新規就農者、農地集積率、地産地消への意識、いずれも高水準を維持している。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	<ul style="list-style-type: none"> 農地集積率、地産地消を意識する割合は、数字上も目標を達成している。新規就農者数は目標を達成していないが、毎年度一定程度の就農者がいることから、施策全体としては目標達成できたと考えている。 新たな担い手確保のための関係者協議により(新組織設置)、課題解決に向けて進んでいる。 食農理解促進事業の継続実施、内容充実を図り、定着化にむけた取組みが前進した。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業担い手育成支援事業 食農理解促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> 自主的活動支援事業補助金により、担い手の自主的な研修・研究活動への支援を継続実施した。 農業後継者のスムーズな就農を支援するため、JAめむろと連携を密にし「新農業経営育成システム」を継続実施した。 2年目を迎えた「食農教育」について、指導農業者・農業者会、JAめむろの協力を得て、教育委員会と連携し、前年度の反省点を改善しながら継続実施した。 新たな担い手(新規就農者、労働力、農業後継者の配偶者)確保のための体制構築に向け、JAめむろ、農業委員会と協議を進め、農業再生協議会 営農活動支援委員会に担い手部会を設置した。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	成果指標については概ね目標を達成しており、「食農理解促進事業」の継続実施や関係機関と連携した担い手確保対策の検討・推進により、計画策定時よりも前進していると考える。						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果			○		

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場における労働力不足は、農業の安定経営や将来にわたって耕作放棄地を発生させないために解決すべき大きな課題であり、中・長期的な視点による対策が必要となっている。 ・めぐる農業の応援団づくり、それによる郷土愛醸成のため、農業の魅力を発信・体験することができる「食農理解促進事業」の定着、さらなる拡大・充実が必要となっている。 ・コロナウイルス感染症、国際情勢の変化などにより、地産地消意識のさらなる醸成、国産農畜産物への回帰の動きが見られる。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場における労働力確保対策 →(対応):新たな担い手確保のため農業再生協議会 営農活動支援委員会に担い手部会を設置。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成・確保に向けて農業再生協議会担い手部会において、就農希望者(第三者承継も含む新規就農者など)の具体的受け入れ態勢の検討、構築に取り組む。 ・町内全小中学校における食農教育の実施に向けて、教育委員会(学校現場)、指導農業士・農業士会との協議を加速化させる。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「前進した」と評価する。						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	農協と役場で協議して取組を進めており、目標の数字が限界までできているため伸び悩むところもあるが、この指標はクリアしている。芽室町の不耕作地もほぼなく、心配なく進んでいるため、「大きく前進した」と評価する。						
		A	B	C	D	E	
		進捗結果		○			
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					